



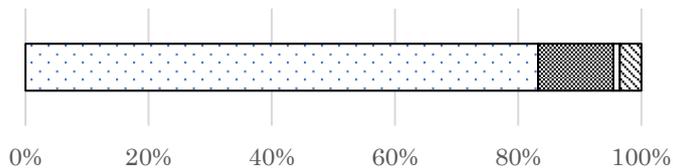
本校は、令和4年度と5年度、文部科学省から「人権教育に関する研究校」としての指定を受けています。今年度は、学校課題を「豊かな人間性や自尊感情を育成する人権教育～互いの違いやよさを認め合い、相手の気持ちを考えて行動できる児童の育成～」をテーマに設定し、児童、教職員、そして保護者の皆様とともに、人権に関する意識を高め、よりよい児童の育成、より過ごしやすい学校・家庭・地域づくりにつなげていくために様々な取り組みをしています。

その一環として人権教育に関する本校の活動を伝えるための人権だよりを発行します。第1号では、1学期に実施した人権に関する児童のアンケート結果を中心にお伝えします。また、栃木県教育委員会が作成したリーフレット「人権の窓」も配布しましたので、併せてご覧ください。

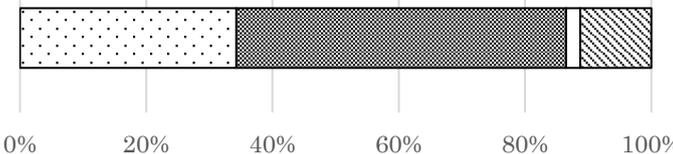
人権アンケート結果

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

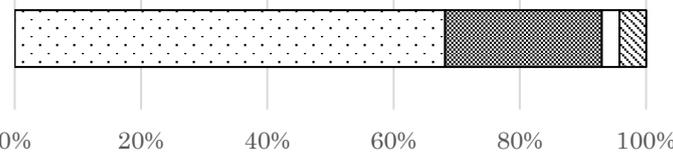
1 いじめは、どんな理由があってもいけない。



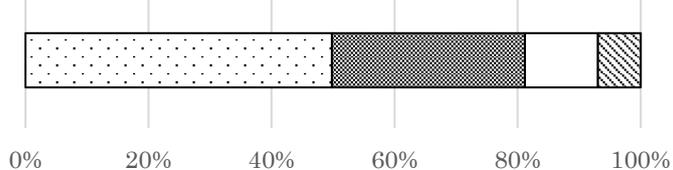
2 日本や世界には様々な人権問題があることを知っている。(中・高学年)



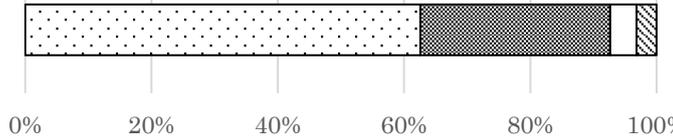
4 いろいろな考えをもつ人たちと、ともに暮らしていることを知っている。



6 自分にはよいところがある。



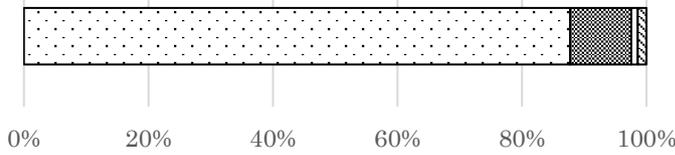
8 正しいことを行い、よくないことを正そうとする気持ちがある。



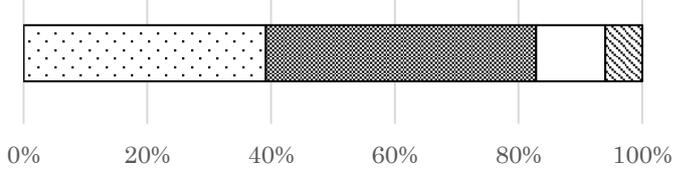
3 どんな人権問題を知っているか(記述式)

- ・会社内でのパワハラ ・学校内のいじめ
- ・黒人と白人の差別 ・女性と男性の差別
- ・黒人に対することや外国での接し方
- ・虐待 ・いじめ ・男女差別 ・人種差別 ・黒人差別
- ・ジェンダー ・ウクライナ情勢 ・悪口
- ・基本的人権の尊重 ・国民主権 ・人権の侵害
- ・教育が受けられない ・戦争で簡単に亡くなる
- ・食べ物や飲料水が十分にとれない

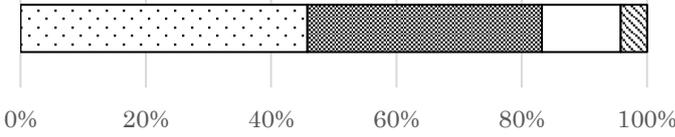
5 友達と考えや気持ちを伝え合うことは、大切だ。

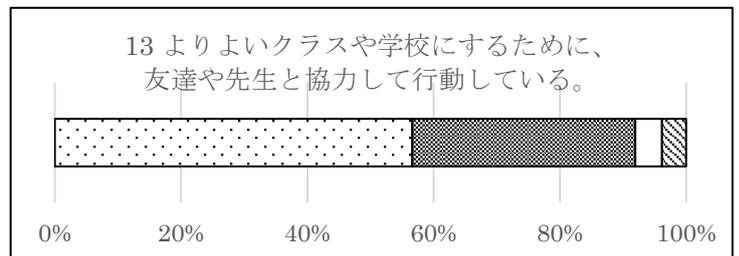
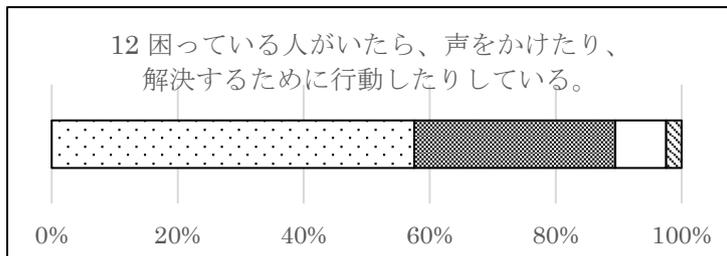
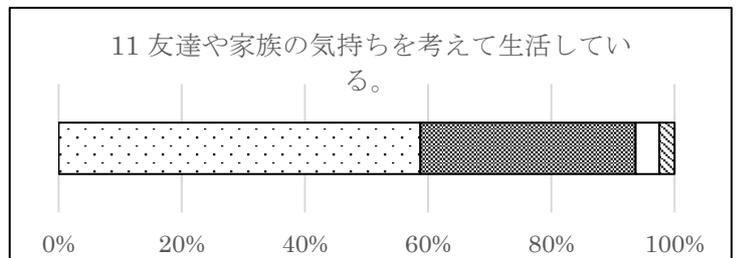
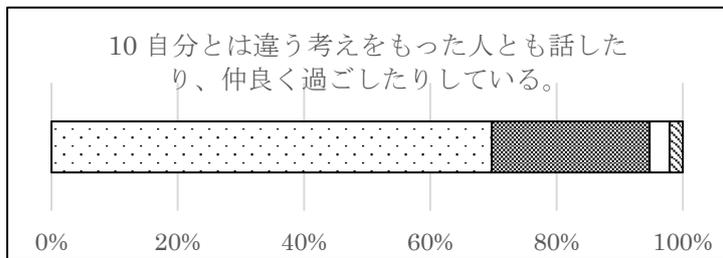


7 友達や家族、先生から認められている。



9 クラスや学校をよくするために、何をしたらよいか考えている。





【アンケート結果の考察】

① 肯定的な回答の割合が多い項目

設問1「いじめは、どんな理由があってもいけない。」設問8「正しいことを行い、よくないことを正そうとする気持ちがある。」の項目への肯定的な回答の割合が高いことから、善悪の判断について、自信をもって生活することができている児童が多いことが分かります。

また、設問10「自分とは違う考えをもった人とも話したり、仲良く過ごしたりしている。」設問11「友達や家族の気持ちを考えて生活している。」設問12「困っている人がいたら、声をかけたり、解決するために行動したりしている。」などの項目への肯定的な回答の割合が高いことから、互いに心地よい生活を送ろうとしている児童が多いことが分かります。

② 肯定的な回答の割合が少ない項目

一方で、設問6「自分にはよいところがある。」設問7「友達や家族、先生から認められている。」などの項目においては、他の項目に比べて否定的な回答の割合が高く、自己肯定感が低い児童が一定数いることが分かります。

また、設問9「クラスや学校をよくするために、何をしたらよいか考えている」と設問13「よりよいクラスや学校にするために、友達や先生と協力して行動している。」を比較すると、設問9では、「そう思う」の割合が低くなっています。このことから、自分に自信をもつことができていない児童がいるのではないかと推測されます。

褒め方講座

…親はほめているつもりでも、子どもは「ほめられている」とは受け取っていないのです。

たとえば、プールで初めて10m泳げた子どもが喜び勇んで帰ってきたとき、親は「よくやったね」とほめるとします。しかし、そのあとで、「今度は20mを目指して頑張るのよ」と続けるのではないのでしょうか。

これでは、子どもは「ほめられた」と感じるより、「頑張れ!」とお尻をたたかれたと受け取ります。

昔から「三つ叱って、七つほめろ!」と言いますが、現実にはなかなかどうして、「七つ叱って、三つほめる」ということになりがちなのです。

